

子種日記
卷八

一	二	三	六	二六〇三〇	和書門
册	架	函	號	類	

一七七	一三〇	和書
函	册	類

内閣文庫	
番號	和 26030
冊數	12 (8)
函號	177 1149



千種日記

八

千種日記 卷之八
...
...
...

千種日記

千種日記卷第八目錄

從高野山到和州郡山記

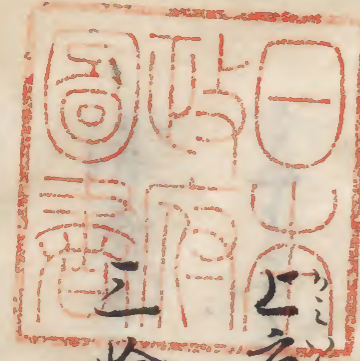
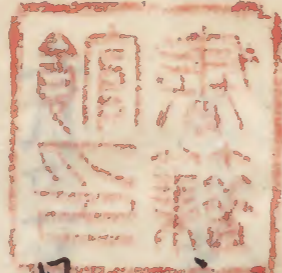
高野山とあゝ丹原の里にあり奉

丹原とあゝ高野の里にあり奉

高野山めぐりてみる奉

高野とあゝ高野の里にあり奉

高野とあゝ高野の里にあり奉



和學講談所

淺草文庫

十種日記卷第八
高野山紀
和列郡山紀
五月廿一日より廿五日
高野山紀
和列郡山紀
五月廿一日より廿五日

十種日記卷第八

從高野山到和列郡山紀
五月廿一日より廿五日
高野山紀
和列郡山紀
五月廿一日より廿五日

五月廿一日 天晴夜風の何れにふぶの雨をなすり

初詣の月のめくよき和列郡山紀
大和國一とむ人

とすふふい大塔名ふりあり水のなをゆる

清峯寺とりよ寺と考次云の自容トまふ可ま

ゆらりとけむのうらよふふりゆらりとまふ

あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは

あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは
あふせのこころみうとていふかたは

新古今地圖は

のうた

かつしとやめちよわすいし橋の流めし中とまりやま

しあつあつと多し一又しあつと令剛山と一し

ともしふ大和河内の支國よほしうしとらのこ

一とまの社を役小角しめしけしとひしきけし

轉てん法はう橋きょうを役小角しめしけしとひしきけし

又久米河の橋はるの流多し一あつと一うき

はるんととらあつてなんちよとふしうのうき

多し森とゆりくふ尺の社とく四神とながめけし

かりる城はあのかつとふとらかりとるの城

ゆりしあつ村をすましと河やとふあつと

一のあつと入く体むけ里は者のあつと

點あちととらあつとくあつとくあつとくあつと

あつととらあつとくあつとくあつとくあつと

あつととらあつとくあつとくあつとくあつと

あつととらあつとくあつとくあつとくあつと

田村赤塚村とすまゝのりけとわらけ水と
 中將姫とやの曼陀羅と藏すまゝ人ひんて
 紀伊國と大和國とのうひ川の中村赤山村とまゝ
 人ひんてとこころよむこのゆゑとまゝ
 ありあゝあひーはーめさゝあゝあひーあゝ
 丹原とわらむゆの里にむら
 九日て晴日とけく丹原といつらふらあゝあゝ
 いるりみや川とわらむとゆゑ村とまゝあゝあゝ

のうとゆゑと五條といふおよこゝろまゝあゝあゝ
 之國のこのめむふよまゝあゝあゝあゝあゝ
 ところよあるなりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 とゆらうとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑ
 こそおははいせの國(ちち)のりせうのうけとて
 まゝとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑ
 りの城みぢるな城とゆゑのゆゑとゆゑとゆゑとゆゑ
 侍とあやけとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑとゆゑ

水のくさくさいとわたりていふは、
なごあつちくながめともありをいふかなとあはれ
のりせなきかともうんちと人のまくら紙ひくまふ
すまにるひあづけいしきじりー^{こて}相模金巻^{さうま}とあはれ
うけーそりんとせーふまのけりー^{あそ}あそとあはれ
とくやめると也それよりー^{あそ}あそ葉の光也
中作り^{さうま}相模金巻^{さうま}はあつちー^{あそ}あそ葉の木のまぐひ
なりあつちいふとあつちいふとけ也な成このわ

あつちいふ今あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ
あつちいふあつちいふあつちいふあつちいふあつちいふ

のぢかあゆもなすれよせられさびらしくまき
よふむごこゆのいとねりし語し河れくまといひて
ゆびさしきつさくらあつくむねさくらしらの
あしきか紙けりみまごころきくうまもあそ
いらのさくらとのゆらちくらふ地蔵堂さくらさで
ふけの地蔵といふこの堂のあまごよりみちのたか
なみ木のさくらを本わうさくら地まきさくらなる
初瀬多良峯へりなるたの山代橋り嶽といふむれ

本多一攀のりりく名野の里よいらくふたくの
かんまご目と書めべしとくまをさくらさく
さゆらあらしよひあけらのとがしとふはい
よふ花のころあしほじとてねりよふまのむね
あつらふゆきさくらみなやとくありのたこよ河
らいちきせくゆら河のころは流のちかき湯太
え年よさくらこなりけりとてあまごむらばら
ひ雲のぼるのいろやの日はと人の草建り堂の

まよひにむさうとくをなむるのみたふ 珠岩を
むらゝえよりくらくらゝとなむしりゝいみじ
ひらゝ礎のこまりたるは云神の文ありこれと又
日養上人の着の寄るくもくまよ也な縁断
りく吾世の町よ入けおめくかうちとくかなり
あゝりたの吾ふくくくを水もよあゝむらゝ
義経とくゆひく弁慶危のるよ 行とく地余
のこゝらゝる寺の肉とりのくられねたれとく

漆の戸をゆくゝのこまりけりそ後後後
皇建武の礼とけをゆひくけ寺ふおけ
ゆりける也客殿のゆよすゝ後ゆらゝとけ
ふはりの皇居なりとけゆらゝ小松をいそめらゝ
くろむむらゝらゝの、新帝をゆまをゆひく
初めは武彦ち師也吾世の文を焼くも色いそ
きんけちのこゆりけりなり 長と中秀を云
けふの花こまよとくさうふくくまりゆひく

皇居の山は楊貴妃の像とくけり同いその時秀吉
そのねをせりしありけは後を将野原のりかきけり
とぞちをもくたの山賦性天岩とよみ松の一本
まげまうりてよりひびくけり紙片の音ふるさ
つとくむよの山よのかり東徳山女岩橋よりけさ
段の小角まさめり花王権沢の像るまの娘は
合意がかけりてくそのさびくは倍といこの天皇
所震をにくりせうよまおともころふのこまり

又ころりしは醜醜水みりし刻ませはよき像を
桶正の口條繩よにく討死せりしを名中の山門よ
ゆうぞゆうさふはさふさくかえの戸よま
とよか—あふ
ゆ—こねかきもあはれなまふ入名を
こよのるもこの事—あともあれよなむいあ
寺より後の山ふのぼりて後醜醜天皇御後ふ
流くなる沖墳をめぐりてさづきくおともおやく

あがりあよる為湯新まこの御門の正元三月八月
十六日これとせぬひと湯老まきく湯神
かぐ小園とのちをぬむじ信よりりしに
よきく小向小舞王まのけりまが地をぬれぬ
こころ人よりおすうあまきまうりささう
おろくく逆風をそくまひかち程うく建
みまきあきくほぬふけふめくこれとせまふ
あられ小まきあきくまうりまゆらき

けふ小出掃子の御神もあきくまうけ御神を天
穂年命なり戦陣のまはあま小由りせま
掃子とまきあきくまうりまゆらき
らに神社とらふ是より御社のうら山を神
あまのいたのまうけまうりあまの
うらまの御神かまうりまうりせぬと記
あまの御神
あまの御神

こうしてはびい——感^{せい}を^まに^いの^らら^らに^をと^らび
かたにやわぬ酒之年後村と帝^{すい}南^{なん}より京^{きやう}一^{いち}津^{しん}
美^みの^く之^の種^{たね}神^{かみ}宗^{むね}帝^{すい}部^べと^かま^せは^びと^かま^せ
ひと^とは^らく^く小^こ關^{かん}よ^いせ^はし^し将^{しやう}軍^{ぐん}義^ぎ備^びう^けと^り
内^{ない}裏^り入^いり^りこ^ころ^ろ人^{ひと}見^みれ^れこ^こい^いや^やゆ^ゆの^の蓄^{たく}
極^{ごく}多^たか^かこ^こら^らの^の名^なお^おな^なり^りと^とい^いて^てい^いて^て
い^いと^とは^はら^らの^のお^おい^いし^しと^とい^いて^てい^いて^て
よ^よの^のい^いび^びぬ^ぬる^るお^おど^どり^りと^とい^いて^てい^いて^て

おいし^しと^とい^いて^てい^いて^て
お^おの^の野^の山^のう^うら^らら^らと^とい^いて^てい^いて^て

か三日と晴^はら^らり^りれ^れと^とい^いて^てい^いて^て
か^かん^んの^のい^いき^きの^のい^いは^はら^らら^らと^とい^いて^てい^いて^て
い^いと^とい^いて^てい^いて^てい^いて^てい^いて^て
ら^らり^りら^らみ^みの^のら^らら^らと^とい^いて^てい^いて^て
い^いと^とい^いて^てい^いて^てい^いて^てい^いて^て
中^{ちゆう}の^のい^いち^ちち^ちの^の社^{しゃ}ち^ち小^{せう}竹^{ちく}林^{りん}と^とい^いて^てい^いて^て

極う銭多し一丈目のりしとわたりしち小寺なり
ありしゆい社のりまんとすきくありしにを木
のちりし一町たりついでありしと布ぬのひらのちりしと
ち小寺らぐへの観音さうをたふ新王Shin-ouの社さの
うへの薬師ありと経くたのち銭浦とじうふの
尾とふとゆりと流ちりしとしいの峯に言の
のさうとじふあやあおち小弁へんや玉女たまむすめの村ちる軍ぐんの
初まらば銭さのうとさうの尾さるとじふえんえんのみ

とふ大塔のちやけしよころしせねひ前まへはより敷しき
こみまうしけしとわらまふ村とのりてくまの
ゆまうひと経より軍にけり自みづか家がせしとまの
しとまのまのいしとこのちまのいしと
けしとわらまふかきとまぢぎみやとま
ほあふあにけり自みづか家がせしとけしとまにけり
ひとじとまけりあま今とけり今とま
よるちふしん滞しん候こうをしん智ちの尾のちとけり

なり又或説は安閑天皇の御遷りよりといふは此門の

御遷りい河内國さやの城の山よりいふよりいふは

即よ者亦亦か神社を神祇といふ。これより秀れ

公車具よりと持原のりせん照高院御門のりかせ

まいその源を持野永徳りかけりともが神祇の国

秀れ公のりさせたりともいふは公のりかせ

の社をあらよりすすすすすすすすすすすすすす

跡踏りちるよりよ義徳けいふ入ふとよとよとよとよ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

一ふるりあくとすすすすすすすすすすすすすす

はくらのこ志りりりりりりりりりりりりりりり

くものふたり一也が城く他くちの者ふを木の枝

何れは本の下より藤村ある

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

言野山のりりりりりりりりりりりりりりりりり

ねとくを本をりりりりりりりりりりりりりりりり

名所の地をかりけ山と合峯ふた峰たけとなりくうもは神かみ
号なごよりねとまうり延長式えんの合峯神社ふたよりふくれり
社やしろのうらもといざうへ一町いちをうりふざうくちらさ
あうりけりけめけあうとりふ義治ぎじのの福
徳とくよくうめきくあふわかほひほめふねらゆき
あうり也いあうりもろよりねぞく今ふのこ
まうりどあくとすざうくねくのめんは入安祥あん寺じより
ちとあのせ小角せう一いっ刀たう之の禱たうくく刻きみみたた為なにに持も現げんのの像ざうと

あをせ二重ふたの塔たをの後の白河院しろの神かみ祿ろくにに水みづ建たええり
一いっととより大塔だいのまの乃の一いっととせせままひひ一いっとと名所なの城じやうと
けわうりなりとぞあわうりたの山やまふ入いくく冨ふ正せい面めんととふ
堂だうとと不動ふどう愛あい深しん観音くわん地ち産さんの像ざうとあをせい佛ぶつ像ざうと
相あ違ちがひひあるるのの刻きめめるるととちちのの名なとと通とほううむむううふふあり
法はふののいいりりれれねねああうう今いまはは堂だうととふふありあり法はふと
一いっとと総しやう想じやうのの名な像ざうとあをせい名なよりなれあふ水みづと
若わ法はふああととりりふふかりかりああううりり安あん祥じやうととゆゆううくくううとと

そめくやすむいりーのらにふめのみはまらり
よありあむくすべく山何里海峯文為山井高根尾
と花園うふせしきもあふふも二十一代の和歌集小
と三首七二首入り安祥より大峯（りなるるあふ）
げよ相とくく大峯の遥禱（りふけつりり
な後まけ入るしーのふもふみよひまらりさうと
のりりくみらりりちち大峯（りるりたのみらり）
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あななれとくくくくくくくくくくくくくくくくくく
やうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
なしーがりあむわらう人といふまがはなりのさう
かよちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
よのけくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いふふあふくくくくくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
えん（えん）のた（た）

河津よりあやのよやまのふかきいさのなるめこと
しそ河津よりけしこれら世とくらぶる事いせん
そむのりしとふつ戸人ともちほぐるみく
けついかへ秀存との才大細き変長たお国とさる
しきく郡山の城よかきしゆげくよその
み誠秀信とよひとせ若中の花とのゆりさふけ
らむかみよまかきりけいしよれあさきとらむ
のぬいりあよりたれつがく死むらん人かゆり
かどむきききふことしちほくさるり
しこのちかきしゆれはあくのちねき
しきしきしきしきしきしきしきしきしき
ま入ゆらんといもあが秀信はよ誠さるる
しふねらしうきしそ命とさるるとの着場
のすめさすまきよのよのこい出るふい
あさゆしきえゆらりあいのさたみふれはた
しりの川よさし河津らよ二町さる思つてあり

下に桶をぶせく水そのおよりとさ出るはまのいよほど
 げ也なより東へいとまき下坂とくざりく石卒於婆
 しくもろろ石をその流ふいしく紀元二年九月とら
 づきの人のまじりておのれんこのおろりもまじり
 じし悪悪大師の守子増賀と人といひてあふす
 けりともりけんをおくわくわくかきさの人を
 大神まのホ告るまじりくわくわく此物とまらぬ人をあふ
 まげり衣とみれまじりてまらぬふあへくまらぬ
 あししこにまぬいしとまらぬはまらぬいし
 門とあけいんよりあまの橋井の宿まじり五十所の
 あいししとまらぬ石の表をまらぬみまらぬとわらり
 葉やどまにまらぬお体とくまらぬにのりゆんまら
 ねるまけおしやまおちやにせんまらぬれまらぬいし
 ぶらまらぬまらぬまらぬまらぬこのおら
 いまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
 まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
 まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

くまのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ

うぐいのりぬははむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ
むすむすのつとめはむすむすのつとめ

のゆみれ石のまじりてついでにのぢりたるあまのぢり
ゆさふひくへみへにゆさちちちぢまひの
神のやうなるものさへはくぶきくのじまへく
をよき紀勢くは梅とみくよめるかぬと
人いさんとも知れぬつを花とむり一のたにむひく
り紙あよのぢりくぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
とらりらららららららららららららららららららら
とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とふぢりひくへねとせくみくぶを木の丁
番本のながさくひくへけらとけけとけとけとけとけ
奏一なりーにこれのみと稽文を稽首題
とらりー人よねかせくけ本とらりく之純の
薩摩の像とつくせぢひくとのいと本にくき
ぢめりといらららららららららららららららららららら
法用ぢふあぢすあまを徳列志波ぢよぢぢ
申本らけらつとてらよあぢららららららららららららら
元亨

和書よりけりといふことしきき多分ひりるをたふ三童
の塔をその志のてらと勸学院といふはしきとまひり
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
あしぬど藤永といふつりかきしてまきりぬうらめ
まじり廊下といふことしきき多分ひりるをたふ三童
そのまじりといふことしきき多分ひりるをたふ三童
とまじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童

ううの内付の石塔といふことしきき多分ひりるをたふ三童
初瀬山麓といふことしきき多分ひりるをたふ三童
あしぬど藤永といふつりかきしてまきりぬうらめ
まじり廊下といふことしきき多分ひりるをたふ三童
そのまじりといふことしきき多分ひりるをたふ三童
とまじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童
まじりていふことしきき多分ひりるをたふ三童

定家^{さだけ}家隆^{けいりゅう}のありはなごころんちのなるめちりのを後
りのまろくの南ふなはるまはるまはるまはるまはるまはる
もるもるまを多しな今も人し
初瀬川^{はつせがわ}右^{みぎ}のへは二本を枝とて流るるもとるひは二
かみ^{かみ}後^ご推^{おし}み人し
伯耆^{はくけ}川^{がわ}わさせくわにうらんせふはるわさるわさる
新^{あらた}古^{ふる}接^{つぎ}取^とを改^{あらた}大^{おほ}臣^{おみ}
とらとふ川^{がわ}うふ花^{はな}よま^まくれもはるひしやぞ^{やぞ}藤^{ふじ}小^こ沙^さま^ま

里^{さと}とわくくもこしなふ出^でるよ南^{みなみ}にちいさな山の松
はるなりさるうふみゆかそれな人^{ひと}あはれめくく
なりじうしこの山^{やま}をたよらうしとあまの
わさる地^ちよわらむひらうかいのくもあり
ひらうまにまをまののりよまのくまの山^{やま}は
天山^{あまのやま}といひこの山^{やま}を香^からうしや也^や八^や咫^ぢのくみと傍^{かた}
けりといふもこの山^{やま}をわらむ今^{いま}をとてま
ほのしとまはるふふふふふふふふふふふふふふふふ

あつたのうらむとて又うごころとてまゝなるをけしらのまに
しにしよきなりとて山と高がらとていふ今おらひらや
まらこらちんたふとてふなりうあびらのにけ
おのうらふ神武天皇の世邊がな体なのおふす
せい安寧いとの御後とてまをが神武帝はた和國
高火傍播のまよすまおひくくれさせぬひく
いふのうらふまのまるとやいふらぬのみやこのは
う取のおがしうあびらの南ふらり紙けらの
かまらふまはけいとしと大和のみけのねらふら
いさくこがれんとのとてあなるあまこくたふ
けくと輪のうのひうとてうらこみしにけい
ろよこのうらうとてくらいきに川を新た今定は
のうらうとてまのうらうとてまのうらうとて
約とてく神を拂ち給るのうらうのまをくれ
新勅撰よみくしとてまのうらうとてまのうらうとて
くれくともうらうとてまのうらうとてまのうらうとて

つるやこいよけりちの山とて神とて神の社よ
はうぐもくつる社にけしむきなり神
の社にけしむきなり神の社にけしむきなり
いしけりてけりてけりてけりてけりてけりて
の社名お月くあめあり社とてけりてけりて
と諸山といふむけし社神のりけりてけりて
のこけりてけりてけりてけりてけりてけりて
て山の名とてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて
と也貞観^{ちやんかん}申しけりて社のおとてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて
中のうの日とてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて
ねとけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

貞徳の衣とけしけりぬ^{いんぎつ}ふくむ

しらすとくし^{いんぎつ}ちかき^{いんぎつ}かき^{いんぎつ}はく^{いんぎつ}はく^{いんぎつ}

きさるこの^{いんぎつ}あま^{いんぎつ}り^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}い^{いんぎつ}ひ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}り^{いんぎつ}

み^{いんぎつ}の^{いんぎつ}い^{いんぎつ}と^{いんぎつ}た^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}ひ^{いんぎつ}は^{いんぎつ}の^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}ま^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

廿五日雨あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}の^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}あ^{いんぎつ}

か伝打志うちよりいしむべけくふきと記ふるり
は山のぬし松原いの社をな伝りくたのふ少城しろ
いしむ伝智ちの河しむるのすむけりとうん市場いちばの
いしむ丹波たんぱ多とすましくたふ布ぬいる社社むらぬる社社むら
乃よりもとよりしむの山の禁かぎも阿りけ中神なかかみを素
意雄こののりしむをく十握と剣つるぎなりしむと或説あり
大和やまと國くにと郡磯いそと布ぬいる神かみをむしむ川の川と
よりいしむの剣つるぎなりしむくしむのほりきよふまおあむる
いしむくけりぬるの河のやりお如出ごとくくしむ
馬うまく布ぬいと阿りいしむは剣つるぎのぬるよかりしむ
阿りぬるよりしむおまのむしむはぬふ神かみといしむいけり
しむこのけりし中神なかかみのくふまき物ものふまきこのはあり
伝つたは式しきも大和やまと國くにと郡磯いそと布ぬいる神かみをむしむ
新勅あたら撰えら中なま但たるの奇あまも
事ことのふしむ社むらをなれつて守まもりかちしむのりしむ
續つづ後あと拾ひろき定さだま

美由のうらぬたれしふまをくしそとりん神にぬかし
 けそらみのみらふすよあははのあは紀を帯れまはけ
 かの跡を今い竹悉多でさみのあさちふ^{かたなり、ちうえんちう}印光明山
 ちちういさうあましくまきーさうちひく堂のまふ
 ひむびすいそせうつをゆいさうのーはま井首の
 女の也鏡みーしよ井のたもくさの井のたふりよ
 ちくは女のつらまー今いちうもさくちう人^は
 とまは堂は業^{かひ}年の像ありさういふくねとて
 まつらえんぎるももさくさのまらふいさくち
 ーありひいげあふほまひくのらねうつあ
 平安城^{へいあんじやう}めくうせほひくがさうー東山よれま
 なるけさうにいそその冠^{かむかぶ}と納めくほらとまうさく
 冠はもなんいひけらぶそのほまのほげさく
 ころふひー山より^{かたなり}墓^{かぶら}をさうにりてさく葬^{むすぶ}と
 まうーとまじーのほかに今いさうー河さう
 いーの田の中にいさうのらさうさうさうさ

なりいひのちうめりしきいの人乃みまめゆんてん

とくまのまゝいぢりりどけあひしきしりりりり

又武説よ業年ちり期吉地門のちよ行くゆ

ゆささりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

えんちりりりりりりりりりりりりりりりりり

あやちりりりりりりりりりりりりりりりりり

よあちりりりりりりりりりりりりりりりりり

とちりりりりりりりりりりりりりりりりり

口のえやぐりりりりりりりりりりりりりりり

毛糸はごはりりりりりりりりりりりりりりり

ねんちりりりりりりりりりりりりりりりりり

小野小町いりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

人の子を養ふに如く我々の命を人々にすべし

